

咲-saki-新しい世代

雨宮溯

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので  
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を  
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

清澄高校の全国大会優勝から二十年咲たちの子供達が生まれ清澄高校に入学し全国  
優勝を目指す物語

たまーに他校のルートが入ります

他の小説の影響がかなり大きいです↑特に注意です

追記

二十五年→二十年にしました

理由 アラフォー弄りがしたいから

目

次

新生清澄誕生！	第九局 压倒	
第一局 新生	第十局 決勝	
第二局 新人	第十一局 弱化	
突撃！白糸台高校！	第十二局 炎天	
第三局 徒姉		
第四局 亂入		
第五局 最強		
特訓清澄高校合宿編		
第六局 喫茶		
第七局 合宿		
第八局 邂逅		
開幕！長野地区予選！		

64      50      41      29      21      13

7      1

第九局 压倒  
第十局 決勝  
第十一局 弱化  
第十二局 炎天  
常 咳 新しい世代番外局 実達のバレン  
タインデー

112      98      91      78      70



# 新生清澄誕生！

## 第一局 新生

宮永咲の物語から二十年後の物語

某細胞が発達し同性での子供や結婚が出来るようになった時代

実「来ないねー五人目」

宮永実（みやなが　みのり）

原作主人公の宮永咲とその親友原村和の二人娘の姉であり清澄高校二年生  
性格は和に似たしつかり者だがやはりというべきか方向音痴である

後述するが現清澄麻雀部の部長とは幼馴染みである

美紀「しかた無いわよこここの栄光は二十年前に終わってるんだから」

竹井美紀（たけい　みき）

原作清澄の部長竹井久と当時風越のキャプテンを勤めていた福路美穂子との娘であ

る

どこか抜けてる所がありしょっちゅう実に助けられている清澄高校三年生  
清澄二年の実とは幼馴染み（1ヶ月差）である

蜜花「お姉ちゃん、部長遅れました！」

三月「タコス買つてて遅れただえ！」

宮永蜜花（みやなが  
みつか）

実と同じく咲と和の娘で実の妹である

しつかり者だが怖がりでオカルトは基本的には信じている和と同じデジタル打ちをするタイプである清澄高校一年生

片岡三月（かたおか  
みつき）

当時たつた一人の男子部員だった京太郎と先鋒片岡優希の娘である母と同じで東場にはめっぽう強いが南場では劇的に減速する

余談だが口調と好物は遺伝したようだ（京太郎の得意料理がタコスのせいでも有るとおもうが）

美紀「やつと来たわねそれじやあ打ちましようか」

実「そうねそろそろ始めよう」

対局開始

片岡三月：東

宮永実：南

宮永蜜花：西

竹井美紀：北

三月 25000 親

実 25000

蜜花 25000

美紀 25000

東一局 ドラ：〔1〕

一巡目

三月 「立直！」

実（相変わらず早いな）

美紀（どれかわからないな、これかな？）

三月 「ダブリー一発ロン！一盃口裏乗らず！・11600！」 〔一 ② ③ ④ ② ③ ④ ⑧ ⑨ ⑨〕

⑨⑨ 和了牌 〔7〕 裏ドラ 〔北〕

美紀「うわーいきなり大きいの持つてかれたなあ」

三月 25000→36600

美紀 25000→13400

東一局一本場

三月（？配牌悪すぎるじえ！）

美紀（三月への流れが急に悪くなつた、ということは）

蜜花（お姉ちゃんが使つたのか）

五巡目

実「三月ちゃんそれロン3900の一本場は4200」

実250000→29200

三月36600→32400

そして実は4を支配する

東二局

蜜花（またつたくもつて4が来ない）

美紀（ということは）

三月（ヤバイ手牌な気しかしないじえ）

実 手牌〔四四四四4444④④④④⑤〕 ツモ 〔⑤〕

実「槇」〔4444④④④④⑤⑤〕〔■四四■〕

嶺上牌〔8〕

三人（あ、これヤバイ）

実「もう一つ槇」〔4444⑤⑤8〕〔■四四■■④④■〕

嶺上牌〔⑤〕

三人（／（^。）＼）

実「さらに横」（⑤⑤⑤⑧）（■四四■■④④■■■44■）

嶺上牌（8）

実「嶺上ツモ四暗刻16000オール」

実29200↓45200

美紀13400↓—2600

蜜花25000↓9000

三月32400↓16400

美紀「す、四暗刻て」

三月「東場だよね」

蜜花「東場ですね」

実「とりあえず美紀の飛び終了だね」

美紀「マジかー」

実「マジです」

蜜花「お姉ちゃんそれですとdeathを掛けてるよね？」

実「あははーやつぱり蜜花にはばれるか」

三月「何時も通り悪夢を見た気がするじえ

ポツポツ

実「あ、雨降り始めた」

美紀「え！うそ！私傘持つてきて無いわよお」

蜜花「じゃあ今日は解散ですね」

四人「それじゃあ解散！」

実「蜜花帰るよ」

蜜花「はーい」

宮永咲の物語から二十年後の物語

宮永世代の娘たちが織り出す新たな宮永物語

これは

その頂点を目指す

新しい少女達の軌跡——!!

## 第二局 新人

四人はとある問題で雑談していた

美紀「は〜本当に五人目来ないわね〜」

実「ホント呑気ねあんたも」

蜜花「お姉ちゃんもね」

三月「ホントに誰か居ないのじえ〜」

翌日

昼休み：食堂

???「え？ 麻雀」

実「そう瑠花ちゃん出来たつけ？」

天海瑠花（あまみ るか）

この作品のオリキヤラその1

麻雀経験者とある理由で疎遠になつていた

実とは親友でクラスメイト今は帰宅部の清澄二年生

瑠花「出来るけど弱いよ？」

実「いいのいいの！とりあえず来てくれば良いから！」

瑠花「うん、わかつた」

放課後

実「とりあえず五人目連れて来たよー」

美紀「マジで!?」

実「ほら、入ってきて」

瑠花「う、うんどうもこんにちは実ちゃんの（実）「親友の天海瑠花ちやんだよ」

瑠花「ちよつと!? 実ちゃん!？」

実「だつて瑠花絶対クラスメイトつて言おうとしたでしょ」

瑠花「うつ」

三月「遅れただじえー」

蜜花「遅れました」

三月「もしかして五人目かじえ？」

実「そうだよ親友の瑠花ちゃん」

美紀「とりあえず打つてもらいましようか」

実「面子は？」

美紀「実、蜜花、三月、瑠花ちゃんの四人で」

美紀「あーあと実は」  
実「見ればいいんでしょ?」

対局開始

三月 東親

蜜花 南

瑠花 西

実 北

三月 25000

蜜花 25000

瑠花 25000

実 25000

東一局 親：三月

三巡目

三月「立直だじえ！」

蜜花（どれかわからなーいな）

瑠花（とりあえず安牌つと）

実（とりあえず蜜花のに合わせてつと）

三月 「立直一発ツモ6000オール！親つ跳！」

瑠花 「うげ」

蜜花 （やつぱり東場だと早いわね）

ゴゴゴゴ

三人（？）

実（三月ちゃんはより早くなつてるね蜜花もデジタルにより磨きがかかつてゐるねさて問題の瑠花ちゃんだけど・・・これまた独特な能力だねま、私よりかはましか）

実（とりあえず女神モードでつと）

そのまま進み

南一局

実 6 2 8 0 0

三月 1 5 5 0 0

蜜花 1 1 0 0 0

瑠花 1 0 7 0 0

瑠花 「マジでこれまでいって」 打北

実 「ロン11600」

実 「飛びだね」

実 74400

三月 15500

蜜花 11000

瑠花 900

瑠花 「うわーマジかー」

三月 「実ちゃん結構本気出してたじよ」

蜜花 「共通モードでの『梨』はきついよお姉ちゃん」

瑠花 「共通モード?」

実 「私には女神モードと死神モードそして共通モードがあるんだけど」

実 「バランスの共通、防御の女神、そして攻撃の死神」

実 「今回は共通モードでやらせてもらつたよ」

実 「そのうちの『梨』で戦わせてもらつたよ」

瑠花 「梨』?」

実 「役無し立直ドラもろ乗りが梨の能力だよ」

蜜花 「今日はもう遅いからそろそろ解散しましようか」

美紀 「そうね、瑠花さんうちとしては入つてくれる助かるわ」

瑠花 「そうですか」

実「お願い！」

瑠花「じゃあ来週の月曜日に決めます」

帰り道：校門

実「ねえねえ明日の土曜日とある場所に行くんだけど一緒に行く？」

瑠花「行きたいけどどこ行くの？」

実「んー東京」

瑠花「え!?」

# 突撃！白糸台高校！

## 第三局 徒姉

ここは白糸台高校麻雀部部員100名を有する強豪校だ

放課後：部室

??? 「暇だよー千姉え」

千 「しかた無しじゃないか流今はちょうど卓全部埋まってるんだから」

流 「だからつてさあ暇なものは暇なのー」

宮永千（みやなが　せん）

元インターハイチャンピオンと当時白糸台大将大星淡の双子娘の姉である

性格は淡白であまり人とは話せないタイプ話せても冷たい感じになってしまふ  
長野にいる宮永実と宮永蜜花の徒姉妹である

そして一昨年のインターミドルチャンピオンである（ちなみに面子は宮永実 v s 宮永蜜花 v s 宮永千 v s 宮永流というこれ以上なく奇々怪々な対局だった）白糸台二年生  
宮永流（みやなが　ながる）  
千と同じく照姉と淡の子供で双子の妹

姉とは正反対にかなりフレンドリーな性格で友達も多いがかかる性格のせいで先輩にた対してかなり失礼である

一昨年のインターミドル第三位（一位千二位実三位流四位蜜花だつたしかしその全員がほぼ一直線な点数というかなり白熱した試合だつた）白糸台二年生

??? 「おーいお前ら」

千 「どうしたんですか？ 九十九部長」

九十九連理（つくも れんり）

今作のオリキヤラその2

白糸台高校麻雀部の部長で千の極普通に話せる数少ない人材

趣味は人間観察と真面目な方の教育

性格は真面目だがどこかふざけた所のある人

麻雀での実力は千たちと同じかそれ以上

こんな感じの強キヤラ感の無い強キヤラの白糸台三年生

余談だが得意技は斜め45度からのチヨツプである

流 「レンリーなにー？」

連理 「このアホ流！」

流 「痛い！」

流の頭にこれ以上無いほど綺麗な斜め45度からのチョップが入った  
千「で、何ですか？九十九部長」

連理「いやあ卓空いたから打とうと思つてね」

流「他は誰が入るの？」

連理「おーい千鶴」

千鶴「はい、何ですか？」

野賀治千鶴（やがち ちづる）

今作のオリキヤラその3

千や流、連理と同じチームのメンバー

性格は真面目でしつかり者だがD.S超D.S

麻雀での対局戦法も狙つたのをひたすらなぶるただただ笑顔か無表情でなぶる  
といった感じの白糸台二年生

連理「いや、打とうと思つて後一人足りなかつたからね」

流「打とー」

千鶴「いいですよ」

千「すみません家の流が」

千鶴「別に大丈夫だよ」

千鶴 「とりあえず集中的に狙う相手が決まつただけだから」

連理 「じやあ場決めしようか」

連理 東：親

千 流 千 流  
千鶴 北 西 南

連理 2 5 0 0 0

千 流 千 流  
千鶴 2 5 0 0 0

東一局

四巡目

連理 「いよっしゃきたこれツモ！メンタン三色赤二つ！6000オール親つ跳！」

千鶴	流	千	流	千	流
2	2	2	2	2	2
5	5	5	5	5	5
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
↓	↓	↓	↓	↓	↓
1	1	1	1	1	1
9	9	9	9	9	9
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0

千鶴「部長早すぎです」

流（相変わらず千姉並みにはやいなあレンリ）

ゴゴゴゴ

連理（きたねえ千華鏡）

千（流の能力は特に警戒しなくて大丈夫千鶴さんが落としてるし問題は九十九部長だよなあ普通に早め和了り出来るしそれより早くなれるし）

連理「とりあえず一本場」

東一局一本場

三巡目

千「ツモ満貫2100・4100」

連理「うわ親被りの満貫」

流「千姉早すぎ」

千鶴（千ちゃんも部長もスイッチ入っちゃってるからこれは私が流どつちかが飛ぶかな）

連理	4	3	0	0	0	→	3	8	9	0	0
千	1	9	0	0	0	↓	2	7	3	0	0
流	1	9	0	0	0	↓	1	6	9	0	0

千鶴 19000 → 16900

東二局

四巡目

千 「流それロン11600」

流 「うえ! マジか」

連理 (やつぱり早いなあ)

千鶴 (早すぎるよ千ちゃん)

千 27300 → 38900  
流 16900 → 5300

東二局一本場

一巡目

連理「立直」

三人 (ダブリー!?)

千 (わかんないから安牌で)

流 (ダブリーの当たり牌なんか分かんないよ)

連理「流ちやんごめんロン! ダブリー一発ロン! タンピン赤一つ! 裏一つ! 1600  
0 の一本場は 16300」

連理 3 8 9 0 0 → 5 5 2 0 0

流 5 3 0 0 ↓ → 1 1 0 0 0

流 「!？」

二人（マジか）

千「普通ダブリーでその手牌来ますか普通」

連理「来ちゃたものはしようがないでしょ？」

千鶴「ということで流ちゃんの飛び終了だね」

流「マジか！」

堯深「皆集まつて！」

千「渋谷監督呼んでるね」

連理「そうだね行こうか」

千鶴「ですね」

流「置いてかないでよー」

少女集合中

堀深「はーいということで連絡です明日土曜にスペシャルゲストが来ます」

千「え？ 誰だろ？」

連理「ま、明日になれば判るだろ」

堯深「連絡事項は終了したので皆片付けた後解散」  
千（誰が来るんだろう？まあ九十九部長の言う通り明日になれば判るか）

## 第四局 亂入

土曜日：部室

堯深「スペシャルゲストは宮永咲プロとその娘さんとその友達？」

咲「お呼ばれした宮永咲です皆さんとの対局楽しみにしてます」ニコニコ

実「お呼ばれされた宮永プロの娘の実ですよろしくお願ひします」ニコニコ  
蜜花「お姉ちゃんの妹の蜜花です」（その営業スマイルは怖すぎるよお姉ちゃんにお母さん）

実「あと私の親友の瑠花ちゃんです」

瑠花「あ、天海瑠花ですよろしくお願ひします」

挨拶後

実「あ、千おひさしぶり」

千「うん、お久しぶりだね実」

流「ミーノーリー！」（タックルバッグ）

実「ゴフウう、うんお久しぶりだね流ちゃん」（青筋浮かべつつ）

瑠花「ちょ!? 実ちゃん大丈夫!？」

実「だ、大丈夫大丈夫」

蜜花「それ大丈夫じゃないやつだよね!?お姉ちゃん!？」

連理「お、お久しぶりだな実ちゃん」

実「えっと確か連理さん?」

連理「お、覚えててくれたか」

実「そりやそうですよだつて一昨年のインターミドル個人準決勝で私と千でのコンビ打ちした上で最後の一人飛ばしてなんとか三位に落とせた人ですよ?」

連理「そりやそうか」

千「それじゃもうそろそろ対局初めよつか」

蜜花「ですね」

流「面子どうするの?」

連理「宮永四人集で良くないか?瑠花ちゃんは私がトラウマにならない程度に相手しておくから」

実「それじゃ初めよつか」

千 東：親

実 南

蜜花 西

流 北

千	2	5	0	0
実	2	5	0	0
蜜花	2	5	0	0
流	2	5	0	0

対局開始

東一局 親：千

蜜花（お姉ちゃんや千姉は最初の局は和了しないはず）

七巡目

蜜花「ツモ、20000、40000」

千	2	5	0	0	0	↓	2	1	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

実	2	5	0	0	0	↓	2	3	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

蜜花	2	5	0	0	0	↓	3	3	0	0	0
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

流	2	5	0	0	0	↓	2	3	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ゴゴゴゴ

流（やっぱりすごいなこのプレッシャー）

実（蜜花は見なくて十分問題は千と流どっちも能力が独特過ぎる対策のしようがない

な)

千（蜜花は相変わらずデジタルかそれ以上に実あんたの能力多すぎないかグループ分けされてるだけましだが見えないグループと能力が一つずつあるそれに実あんたの『嶺上の果実』は一昨年は前半嶺上開花した局を後半にトレイスして大きく和了する能力だつたろこの会わなかつた一年の間に何があつた実）

東二局 親：実

実（女神・・・死神・・・押しきるか耐えきるかいいや攻めなきや勝てない今回は死神だよ『4の支配』と『死神の果実』で押しきる！）

一巡目

蜜花（これって）

流（ヤバイね）

千（うわこれって）

三人（絶一門!？）

五巡目

実「ツモ、清一色一通ドラ5」

三人（か、数え役満!？）

千（てゆうかこれって永水の石戸霞と阿知賀の松実玄の合わせ技か）

実「16000オール」

千 2 1 0 0 0 ↓ 5 0 0 0

実 2 3 0 0 0 ↓ 7 1 0 0 0

蜜花 3 3 0 0 0 ↓ 1 2 0 0 0

流 2 3 0 0 0 ↓ 7 0 0 0

東二局一本場

実（今度は）

### 五巡目

実「立直」（棒立て立直）

三人（嘘でしょそれもありなのかよ）

### 六巡目

実「ツモ、立直一発清一色対々三暗刻赤1」

三人（嘘でしょ）

実「16100オール」

実「全員飛び終了だね」

三人（うはあ）

千 5 0 0 0 ↓ 1 1 1 0 0

実 71000→119300

蜜花 12000→4100

流 7000→9100

蜜花 「お姉ちゃんやり過ぎ」

実 「あ、やっぱり〜?」

流 「個人で三人一括跳ばしなんて初めて見たよ」

千 「実・・・」

実 「千、一年の内に色々あつたってゆうことだよ」

その頃瑠花&連理は

東一局五本場

連理 「うしつモ4500オール」

蜜花 (うそでしょこれが白糸台高校の最強の実力)

連理 1000000→113500

蜜花 0→4500

モブ 1 0→4500

モブ 2 0→4500

実 「おーい瑠花ちゃん」

瑠花「み、実ちゃん」カタカタ

実「点数見せて」

実「・・・連理さんやり過ぎです」

連理「やつぱり?」

実「はいやつぱりです」

三人「?」(点数表を見る)

三人「うわあ」

その後

堯深「それじや明日も咲ちゃんたちは居るから宜しく」

堯深「それじや解散!」

帰宅中

千「咲さんとか実はどうするの?」

咲「お姉ちゃんち(宮永家東京支部)に泊まるつもりだけど」

千「ですよね」

おまけ 千と実の手作り(個別)夕御飯

千「出来たよ」

全員「いただきます」

全員「・・・」パクパクモグモグ

全員「・・・」

実「ちょっと余り物で作つてくる」

咲「分かつた」

三十分ほど後

実「召し上がり」

全員「・・・!?

実「あれ? 美味しく無かつたですか?」

流「い、いや美味しすぎて驚いてるだけ」

蜜花「千姉が俯いてるけどね」

千「・・・」↑味のランクが違いすぎて落ち込んでる

実「ほら、千も食べて」

千「うん」

その後皆で麻雀して皆で女子トークして寝ましたとさ

## 第五局 最強

翌日日曜日：白糸台麻雀部室

連理「おーい実ちゃん」

実「何ですか？連理さん」

連理「いやー昨日打てなかつたからね打とうよ」

実「いいですよ他の面子どうします？」

連理「じゃあ千鶴ー薰ー」

千鶴「実ちゃん今回は宜しくね」

実「はい宜しくお願ひします」

薰「連理ーなにー？」

実「貴女は？」

薰「私はねー葛木薰だよー」

葛木薰（かつらぎ かおる）

オリキヤラその4

千や連理と同じチームのメンバー

対局スタイルは実の死神モードと同じく高火力で躊躇するスタイル  
能力は後書きに記入しておきます但し神代さんに似た感じだとは言つておきます

白糸台高校三年生

実 「薰さん宜しくお願ひします」

薰 「宜しくね」

連理 「それじや初めよつか」（ちょっとお灸をすえてやるか）

連理 東：親

千鶴 実

北 薫

西 実

連理 千鶴

実 千鶴

2 2 2

5 5 5

0 0 0

0 0 0

対局開始 東一局

連理（とりあえず和了るか）

千鶴（とりあえず一局待つてからだね）

実（とりあえず様子見だね）

薰（まあ極力手出さずに傍観してるか）

七巡目

連理「薰それロン3900」

薰「マジか！」

連理 25000→28900

薰 25000→21100

ゴゴゴゴ

薰（確かに千の千華鏡と似てるね）

千鶴（この感じは確かに似てるね）

実（うえマジか！千鶴さんと連理さんのコンビネーション私の天敵じやん！？薰さんも条件付きでヤバくなるし）

連理「一本場」

東一局一本場 親：連理

千鶴（とりあえず実ちやん落とすか）

連理（千鶴が実ちやん狙うだろうから手伝うか）

九巡目

千鶴「実ちゃんそれロン1000点」

実「え？」

千鶴（これで『脱落』）

連理（グッジョブ千鶴これで殺れる）

南一局三本場 親：連理

二巡目

連理「実ちゃんごめんねロン24000」

実「え？」

連理 6 4 8 0 0 → 8 8 8 0 0

実 2 3 2 0 0 → 8 0 0

実「嘘・・・私が跳ばされた?」（つ四；\*）

連理「実ちゃん」

実「?」

連理「悔しい？」

実「はい」

連理「じゃあそれが敗北だ」

連理「実ちゃんそれをバネにするか足枷にするのはキミ次第だよ」

実「・・・」

連理「私個人はね全国で実ちゃんにまた会いたいと思つてたるだからね悔しかつたら全国でまたやろう」

実「はい！」ポロポロ

連理「よしよし」（＊・・ω）／（；△；）

千鶴「まるで姉と妹ね」

薰「だね～」

千鶴（やつぱりすごいな部長はまた会いたいという言葉と全国の単語だけで慰めた  
よ・・・多分素なんだらうけど）

数分後

連理「実ちゃん大丈夫」

実「はい大丈夫です」

連理「じゃあさ」

実「？」

連理「昼御飯食べよ」

連理「ほら千鶴に薰も」

二人（やつぱりか（かゝ））

時は遡り蜜花 side

蜜花「どうしよう対局相手が居ない」

流「ミツカー」

蜜花「ん？ どうしたの流ちゃん」

流「打とー」

蜜花「いいよ他には？」

流「適当に、集めるよ」

モブ①東：親

蜜花 南

流 西

モブ②北

モブ① 2 5 0 0 0

蜜花

流

モブ② 2 5 0 0 0

対局開始

東一局 親：モブ①

五巡目

蜜花「立直」

六巡目

流「チー！」

八巡目

蜜花「ツモ2000、3900」

流（やつぱり速いというかどうやつたらそこまで完璧なデジタル単体打ちが出来るんだよというかずらしてペース崩した筈なのに簡単に戻したし）

蜜花（あのずらしが無かつたら一発ツモだつたのになと言つても100しか変わらないからいいか）

蜜花 25000→32900

モブ① 25000→21100

流 25000→23000

モブ② 25000→23000

東二局 親：蜜花

四巡目

蜜花「ロン3900」

流「はい」

蜜花 32900→36800

流 23000→19100

流（うんうん良い感じに『散血』してるねその代わり全然和了れないけど）

東二局一本場 親：蜜花

四巡目

蜜花「ツモ4100オール」

流「はい」（本当にミツカ速すぎマジで和了れ無いんだけど!?う～聴牌してたのに～）

蜜花 36800→49100

流 19100→15000

モブ①21100→17000

モブ②23000→18900

流（でももうそろそろ良いかな『凝血』！ふふふこれで『流し』も含めてガンガン和了出来るよ）

東二局一本場

五巡目

蜜花「ツモ」

流（は？）

蜜花「6200オール」

蜜花 49100→67700

流 15000→8800

モブ① 17000→10800

モブ② 18900→12700

流（え？ ちよ？ はあ？ なんで『凝血』が通用しないの！？）

蜜花「流ちゃん」

流「ん？」

蜜花「私にオカルトはあり得ない」

流（効かないって言うこと！？そんなわけ無い一応部長や千姉にも効くんだよ！？）

東二局三本場 親：蜜花

三巡目

蜜花「立直」

流「うつ」

蜜花「ロン24300」

流「え？うあ」

蜜花 67700→92000

流 8800→15500

蜜花「流ちゃんの飛び終了だよ」

流「嘘・・・でしょ」

蜜花「嘘じやないよ」

流「あああ」

蜜花「流のポジションは？」

流「副将」

蜜花「じゃあ同じポジションじやん」

流「え？」

蜜花「全国でも対局できるかもね」

流「（ノ）→（。）

流「うん！私も行くからね！」

帰り道

実&連理

実「連理さん今回ありがとうございます」といいました」

連理「ああ、此方ころありがとうございました」

実・連理「全国で（連理）「待つてたからな！」（実）また会いましょう！」

実「次は負けませんからね！」

連理「次も負けないからな！」

蜜花&流

蜜花「それじやあね流ちゃん」

流「次こそは負けないよ！」

蜜花「こつちこそ！」

実&千

二人「全国で！」(\*。o。) < (^\_\_^ \*)

瑠花&連理

連理「全國で会おうな！」

瑠花「私が個人で行けるかどうかですけどね」

連理「行けるさお前は強いからな」

瑠花「はい！」

咲&堯深

咲「娘達がお世話になりました」

堯深「こちらこそ皆気合いが入ったようですし」

咲「全国で会いましょう」

堯深「ですね」

# 特訓清澄高校合宿編

## 第六局 喫茶

??? : 清澄麻雀部室

美紀 「あー咲さん・・・はい誰かプロ呼んでくれますか・・・はい、ありがとうございます」

「います」

??? : 宮永家 咲さん side

咲 「さてと誰呼ぼ」

和 「どうしたんですか? 咲さん」

咲 「いやーかくかくしかじかで」

和 「成る程あの時のあれですか」

咲 「本当に誰呼ぼう」

和 「加治木さん辺りはどうです?」

咲 「いや三月の速さに追い付ける気がしないからな」

和 「じゃあ純さんは?」

咲 「それだ!」

同時刻：龍門渕家とある一室 龍門渕 side

一 「純くんに電話だよー」

純 「んあ？ 誰からだ？」

一 「咲ちゃんから」

純 「咲か、何のようだ？」

咲 「あー純さん？」↑電話で同時に話したり解説実況などではこのかつこを使わせて  
もらいます

純 「あー何のようだ？・咲」

咲 「実は」

少女事情説明中

純 「成る程なまああのタコス女の娘も居るんだつたら行つてやるか」

咲 「ありがとうございます」

咲さん side

咲 「和ちゃん大丈夫だつて」

和 「良かつたですね咲さん！」

翌日：清澄高校雀部部室

美紀 「瑠花！三月！」

二人「？」

美紀「二人には社会勉強しに行つてもらうわ！」

二人「!」

実「あ」行く場所は r o o f | t o p つてあの雀卓のある喫茶店ですよね！」

瑠花「r o o f | t o p つてあの雀卓のある喫茶店ですよね？」

蜜花「そうですね」

実「ほらほら行つた行つた」

二人「は、はい」

ギイ バタン

実「さて、行つたことだし三麻でもしますか」

美紀「だね」

蜜花「ですね」

少女移動中（三麻は省略）

二人「どうも！」

まこ「おー来たかそれじや奥で着替えてくれ」

二人「は、はい」

少女着替え中

瑠花 「何ですかあ!? これ!?

三月 「メイド服だじえ」

まこ 「おーおー来たか似合つとるの」

三十分ほど後

純 「來たぞ！」

まこ 「ああ來たか二人とも相手してやれー」

二人 「はい！」

三月 東：親

瑠花 南

モブ 北

三月

モブ

瑠花 純

瑠花

モブ

モブ

東一局  
対局開始  
親：三月

ドラ 〔⑦〕

三月 〔一三四二三四〕 2 3 4 ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑦ ⑧ ⑨

三月 (〔⑨〕) 切れば断么三色平和ドラ3聴牌だじえ立直掛ければ九翔確定ツモれば十翔  
一発のれば三倍満だじえ)

三月 「立直」 打牌 〔⑨〕

瑠花 (ダブリー!?)

純 (タコス娘からヤバイ流れがあるな・・・断つか)

純 「ポン」

純 〔1 1 1 9 9 9 ① ① 西西〕 〔横⑨⑨⑨〕

二巡目

三月 「一発ならずだじえ」 自摸 〔西〕

打牌 〔西〕

純 「ロン混老頭対々和8000」

〔1 1 1 9 9 9 ① ① 西西〕 〔横⑨⑨⑨〕 和了牌 〔西〕

純 2 5 0 0 0 → 3 3 0 0 0

三月 2 5 0 0 0 → 1 7 0 0 0

純 「俺の親番だな」

東二局 ドラ 〔⑨〕 親：純

純 〔2 2 2 4 4 8 8 ①中 中 中 発 発 発〕

純（流れは来てるこことは高めで狙うか）ツモ 〔①〕

瑠花（どれか分からぬよー）ツモ 〔8〕

純「それロンだ！」

瑠花（!?この人本当に何者!?)

純「混一色対々和役牌 2 1 8 0 0 0 ！」

瑠花（跳ね満!?)

純 3 2 7 0 0 → 5 0 7 0 0

瑠花 2 5 0 0 0 → 7 0 0 0

純「一本場だ」

東二局一本場 ドラ 〔一〕

純（一局で流れが来なくなるか珍しいな今回の流れはタコス娘ともう一人か）

純〔三六九1158③⑥⑧白発中中〕

純（大三元狙えないことは無いが数牌が酷すぎるほぼ十三不搭つてどういうことだよ

もう一人の方をサポートして和了させるか）

瑠花 〔二三四四四234566白白〕

瑠花（なかなかの手牌ですねただ開幕絶一門なのは気にくわないけど）

三月（一二三四五六七八九九九2白）

三月（混一色一通狙いの方が良いじえ）

純（もう一人の流れに白の流れがある鳴かせるか）打牌（白）

瑠花「ポン！」

（二三四四四23466）（横白白白）打牌（5）

瑠花（これで聴牌一四の二面聴）

三月（う、取られたじえだけど一通だけでも通せるじえ）自摸（5）

二巡目

純（安牌だな）自摸（①）打牌（①）

瑠花「！来ました！ツモ！」自摸（2）

瑠花（二三四四四23466）（横白白白）

和了牌（1）

瑠花「白ドラ1！600・1100！」

三月（また防がれたじよ）

少女対局中

純「また俺がトップだな」

三月（何だじえこの人）

瑠花（強すぎる）

まこ「やつぱり純の勝ちか残念じや」

純「何でだよ！」

瑠花「この人何者何ですかまこさん？」

まこ「井上純プロじやよ名前位は聞いたこと有るじやろ」

瑠花「あ、はいあります二十五年前の清澄の伝説はよく読みましたから」

まこ「そりやまた恥ずかしいのぉ」

三月「聞いたことあるじえ確か県予選でお母さんが苦戦した人だじえ」

純「一つ聞きたいが何で分かんなかつたんだ俺のこと」

二人「だつて男つぽかつたから」

純「一つ言わせてもらおう俺は女だ！」

まこ「それでそいつらは行けそうかのお全国」

純「はつきり言わせてもらうとキツイな」

純「実ちゃんや美紀ならともかく現状じやあまず無理だ」

純「俺くらい程度には一矢報える位じやないとな」

瑠花（こんななんじやダメなんだ）

三月（私に至つてはオール最下位な上ほぼ焼き鳥だつたじよ）

数時間後

二人 「部長！」

美紀 「なに？」

瑠花 「私たち強くなりたいです！」

美紀 （ニヤリ） つホワイトボード ブンツ

二人 「?」

美紀 つホワイトボード バンツ

美紀 「強化合宿行くわよ！」

二人 「はい！」

## 第七局 合宿

美紀 「やつと着いたわね！」

実 「ま、結局麻雀するだけなんだけどね」

三月 「楽しみだじえ！」

実 「その前に三月ちゃん？」 つ三月の肩ガシツ

三月 「じよつ！？」

実 「たしか純さんにぼこぼこにされたらしいね？」

三月 「確かにぼこぼこにされたじょ」

実 「よし決めた三月ちゃんは私との対局メインね」

実 「皆の分の特訓メニ<sup>?!?!?</sup>ーも明日までに決めとくから覚悟しておいてね」

実 「それじゃ皆入ろう！」

皆 「はい」

瑠花 「美紀先輩」

美紀 「なに？」

瑠花「実ちゃんの作るメニューって?」

美紀「強いて言うなら超鬼畜メニュー」

瑠花「えつ!」

実(ニコニコ)

その他(サ一)

美紀「とりあえずガンバロー」

皆「おー」

数分後

美紀「とりあえず皆自由時間午後までね」

実「さて三月ちゃんは私と特訓ね蜜花、瑠花付き合つて

二人「あ、はい」

美紀「とりあえず皆行っちゃつたし温泉でも入つてくるかな」  
少女入浴中

美紀「ただいま」

実「お帰りー」

他三人(チーン)

美紀「実何したの?」

実「ちょっと本気出してしごいただけだけど」

美紀「ちょっとじやないんじやない?」

実「はははま、温泉入つてくるよ」

美紀「行つてらっしゃい」

数分後

三月「ハツ」Σ(。△。)

美紀「お帰り」

蜜花「地獄を見ました」

美紀「なにされたの?」

瑠花「姉帶さんの友引でぼこぼこにされた」

美紀「なるほどね」(、・ω・、；)

蜜花「お姉ちゃんは?」

美紀「温泉入りに行つたよ」

蜜花「お姉ちゃんらしいね」

三月「なんでだじえ?」

美紀「実つて変にマイペースなのよね」

蜜花「なのに妙に信用できるというか」

美紀「成功するつて確信が持てるのよね」

蜜花「前に七教科平均70点でマジで全教科70点でしたからねお姉ちゃん」  
 瑠花「確かにやつてたなー実ちやんというかあの時オール100点取れる難易度なのに何故オール70点?って聞いたら『だつて目標点数70点なんだから70点ジャスト取らないと』って言つたんだよ実」

三月「なにそれ恐いじえ」(( ; ピ。 ))

25分ほど後

実「ただいま」

蜜花「お帰りお姉ちゃん」

実「皆のメニュー決まつたよ」

実「まず三月ちゃん基本的に私との対局と計算ドリルを一対局ごとにそれと皆は三月ちゃん」と打つときは鳴きでの速攻メインでお願い」

実「次は美紀ちゃんは私との速さ特訓ね私は誠子さん使うから」

実「蜜花は基本的にパソコンでひたすら天〇しててただしこつもより速度を優先して

ね」

蜜花「わかつたお姉ちゃん」

実「瑠花ちゃんは私指導の下能力発掘ね」

瑠花「え？ 私にも能力あんの？」

実「うん有るよ」

瑠花（言い切つたよこのこ）

実「あー後明日からゲスト来るから今日は休みね」

全員「えつ？」

翌日：旅館：AM 8:00

キキー

実を除く全員「!？」

実「あ、來た」

咲「実一來たよー」

蜜花「お母さん!?」

和「咲さん速すぎです」

蜜花「ママも!？」

久「智美もありがとね」

智美「ワハハー別にいいぞー」

美紀「お母さん!?」

優希「ちよつと吐いてきてもいいかじえ？」

まこ「いいと思うぞ」つエチケット袋

三月「お母さんにまこさん」

数分後

優希「ただいまだじえ」

咲「お帰り優希ちゃん」

和「大丈夫ですか？ 優希」

優希「大丈夫だじえのどちらん」

実「それじゃそろそろ始めよ」

対局開始（※ダイジエストです）

東一局 親：優希 ドラ〔四〕

四順目

優希「立直ツモ！ 三暗刻門清ドラ2 12000オールだじえ！」

〔②②③④⑤⑤赤⑤⑦⑦⑦⑨⑨⑨〕 和了牌（赤⑤）

裏ドラ〔北〕

瑠花（は、速い）

美紀（さすが三月ちゃんのお母さん速い）

蜜花（は、速すぎます）

東一局 親：蜜花 ドラ {1}

七順目

まこ「ツモ七対子混一色30000・60000じや」{一一三三四四六六七七九九西} 和

了牌 {西}

久（相変わらず染めてるわね）

瑠花（染めてるから打点が高い）

蜜花（染めてるのに存外速すぎますというか途中から有効牌が来なくなつた気が）

まこ（蜜花ちゃんには悪いことするのぉ）

東二局 親：まこ ドラ {三}

八順目

久「ツモ！七対子ドラドラ20000・40000！」{①①三四四六六八八九九北} 和

了牌 {北}

蜜花（え？え？ {一} の対子落として {①} の対子と残り一枚の {北} での混一色捨てて地獄单騎待ち！わけ分かりません！）

瑠花（過去の記録で見たけどやつぱり読めない）

まこ（相変わらずの悪待ちじやのう）

東三局 親：瑠花 ドラ {①}

和「立直一発ツモ！混一色三暗刻役牌2 40000・8000」〔11234555東

東東発発〕和了牌〔発〕

咲（やつぱり速い負けてられないよ）

実（さすがママ速い）

瑠花（親被り満貫食らつちやた）

東四局 親：咲 ドラ〔⑧〕

咲「槇」〔中中①発発発発白白白〕〔■④④■〕嶺上牌〔②〕ドラ〔西〕

実（あ、ヤバイ）

咲「もいつこ槇」〔中中②白白白〕〔■発発■〕〔■④④■〕嶺上牌〔白〕ドラ〔1〕

咲「もいつこ槇」〔中中①②〕〔■④④■〕〔■発発■〕〔■白白■〕嶺上牌〔③〕ドラ

〔北〕

咲「嶺上ツモ混一色三暗刻三槇子小三元役牌2 12000オール！」〔中中①②〕〔■

④④■〕〔■発発■〕〔■白白■〕和了牌〔③〕

和（相変わらずの高火力ですね咲さん）（―――；）

瑠花（なにこれ？）

実（相変わらず火力高いなー母さん）

対局終了（ダイジエスト終了）

実「やっぱり強いなー母さん達は」

咲「伊達にプロやつてないよ実」

蜜花「やっぱりママのデジタルの完成度高いなあ追い付ける気がしなかつたよ」

和「母に勝る子はいませんよ蜜花」

実「久さん全体の評価お願ひします」

久「OK実とりあえず皆」

実と親達以外「はい！」

久「このままだと県予選勝ち抜ける可能性は低いわ」

実（だよね）

久「少なくとも手加減した優希に満貫以上直撃させる位じやないと  
実を除くほぼ全員「マジか」

実（ですよね）

久「まあ実と美紀は大丈夫だとして」

三月「え？ 実先輩はともかく美紀先輩も？」

久「ええ、まあ条件付きだけどね」

美紀「序盤の運の悪さは折り紙付きレベルだものねえ実？」

実「そうだね、うん」

美紀「そこは否定するところじゃないのか!?」

実「運の悪さだけは否定できないのよね美紀つて」

美紀「ウツ（凶星）」

実「まあ悪運はいいから」

久「今のところまあ負けるわねあんたたち」

まこ「じやが、イーブンにもつていける可能性は出てくるかの」

三月「ホントだじえ!？」

久「ええホントよ」

久「ただし実の調くんつんく教育もとい指導の下で打つた場合だけどね」

皆「あ、はい」

実「と、いうことで昼食の後ひたすら特打ちね」

皆「りよ、了解」

昼食後

実「え? 私の本気が見たい?」

瑠花「うん、見たい」

実「まあいいか」

実「蜜花、三月来て」

久「あれやるの?」

実「やるよ」

久「とりあえず跳ばすの?」

実「跳ばすよ」

久「お、おう」

対局後

実「ツモ嶺上開花混一色混老頭一盃口 6400オール」  
〔中中⑦⑦⑧⑧⑨〕〔■西西■〕〔■①①■〕和了牌 〔⑨〕

実 31000

蜜花—6000

三月—6000

瑠花—6000

三月「東場の私が追い付けなかつたじよ」

瑠花「しかもあの支配つて」

蜜花「配牌から自摸まで同じ牌だつた」

咲「それが実の本気の支配よ」

蜜花「お姉ちゃんの・・・本気」

久「実が五連続ハネ満和了して飛び終了ね」

まこ「本当に実の本気はヤバイのお」

優希「ま、咲ちゃんの娘らしい強さだじえ」

和「ですねさすが私と咲さんの娘です」

久「相変わらず溺愛してるわねえ」

咲「あはは」（のワの）

その後

実「はー楽しかつた」

蜜花「だねお姉ちゃん」

咲「実と蜜花と久しぶりに打てて楽しかつたよ」

和「私はどうなんですか咲さん」

咲「最近は公式試合でしか打ててなかつたから楽しかつたよ和ちゃん」

久「この後はどうするの？」

優希「明日京太郎が迎えにくるじえ」

咲「じゃあ一緒に帰らせて貰おうかな優希ちゃん」

和「ですね久しぶりに三人で話したいですし」

優希「いいじえ！家の車ボツクスカーだから大丈夫だじえ！」

久「私は美穂子と一緒に帰るかしらね」

まこ「わしは一人じやのう」

翌朝

咲達 side

京太郎「おーい優希ー迎えに来たぞー」

優希「お、京太郎が迎えに来たじえ」

和「それじやあ帰りましようか」

咲「だね」

咲「それじやあありがとうございました部長今度は公式試合で」

久「そうね今度は公式試合で」

車内

咲「ん？あ、実達寝てる」

和「ですね疲れたんでしよう」

京太郎「寝かせといてやれ」

優希「そうするじえ」

久達 side

美穂子「久さん来ましたよ」

久「ありがとうね美穂子あ、あとまこ乗せてもらつていい?」

美穂子「久さんの頼みなら」

久「ありがとうね」

まこ「ありがとうのう」

久「それじゃあ帰りましようか」

美穂子「そうですね」

美紀「速く帰ろ!」

久「美紀も呼んでるし速く行きましょう」

美穂子「ですね」

# 開幕！長野地区予選！

## 第八局 邂逅

三月 「美紀先輩～まだ着かないのじえ？」

美紀 「残念ながらまだ先よ三月」

今新生清澄は電車に揺られていた

瑠花 「そういえば実ちゃんと美紀先輩っていつ頃出会ったんですか？」

美紀 「え～と言つていい？ 実」

実 「いいんじやない？」

瑠花 「蜜花ちゃんは知らない？」

蜜花 「私も中学入った直後つくづく知つたから知らないですね」

美紀 「え～と確か九歳位のだつたかな？ 実が小2で私が小3の夏ごろ」

実 「だね大体そのくらいだつたね」

美紀 「あの時一人でブランコに座つてたもんね」

実 「それで無理矢理 r o o f — t o p に連れてかれて」

美紀 「なんかゴメン」(；) — (；)

実「いいよいよ怒つては無かつたし」

美紀「それは良かつた」

実「あれ使つて怒らない人初めて見たけど」

二人を除く皆「あれ？」

実「あははまあ秘密だよ」

美紀「だね」

皆「??」

そして揺られ続け

三月「やつと着いたじえー！」

瑠花「少し位静かにしてよ三月ちゃん」

三月「天海先輩ゴメンだじえ」（一人一；）

実「あ、ちよつと知り合いに会つてくる」

六花「由良ーお待ちくださいましー」

龍門渕六花（りゆうもんぶち りつか）

現龍門渕家当主龍門渕透華とそのメイド国広一の娘  
真面目な性格だがどこか抜けていて家族や仲間、友人のことになると暑くなる龍門渕

一年

余談だが眼鏡だ

ついでに実も眼鏡だ特殊な者だが

由良「断る！」

天江由良（あまえ ゆら）

二十五年前に宮永咲、加治木ゆみ、池田華奈と激戦を繰り広げた天江衣の娘（父親？夜逃げでもしたんとちやう？）

母親に似て言葉回しは大人っぽい龍門渕一年

余談だがイメージがぜかましなのよね

ドンツ

由良「済まない今は逃げてるからそれj」

ヒヨイツ↑実約150cm由良約120弱（身長）

由良「ニヤツ!？」

実「久しぶり由良ちゃん」

六花「はあはあ」（；△、）

実「久しぶりですね龍門渕さん」

六花「あ、お久しぶりですね実後、毎度言つてましたが龍門渕さんだとお母様と被るから六花と呼べと言つてますわよね実」

少女雑談中

実「また打ちたいですね」ナデナデ

由良「フア～」(↙▽↙@)

美紀「実！」

実「あ、美紀」

美紀「やつと見つけた三月瑠花たち呼んできて」

三月「了解だじえ！」

葉癒「おーい六花ー由良ー」

笛乃木葉癒（ささのき　はゆ）

オリキヤラその5

今のが広くん桦六花の専属メイド見た目はメイド服風の改造制服

龍門渕に居る理由は借金した父親に売られた

余談だが特技は何処ででも寝れることと怪我の治療

葉癒「やつと見つけたよ」

実「あ、葉癒ちゃん」

葉癒「あ、宮永さんお久しぶりです」

美紀「また知り合い？」

瑠花「こらー実ーー！」（□、）

実「あ、瑠花ちゅ」

瑠花「チエストオ（ビンタ）ーー！」（▣△▣○△☆）△、）パーン

実「ゴフウ」

六花「実大丈夫ですか？」由良をキヤツチしつつ

実「大丈夫」

蕾「相変わらずお前の周りは騒がしいな実」

実「あ、加治木さん」

加治木蕾（かじき つぼみ）

二十五年前咲や衣、華奈と激戦を繰り広げた加治木ゆみと鶴賀の『消える』一年こと

東横桃子との娘

根っからの真面目キャラの鶴賀二年

蕾「だから加治木さんは辞める同い年なんだから」

実「ちよつとした癖みたいなものですよ」

蕾「そーか」

幸「おーい加治木ーー」

紅幸（くれない さち）

オリキヤラその6

鶴賀学園 in 麻雀部の部長

陽気でおおざっぱな性格なので先輩後輩関係を気にしない人基本的に名前にさん付  
けで呼ばせる

蕾 「あ、幸さん」

幸 「おうそつちのは?」

実 「宮永実です」

幸 「私は紅幸だよろしくな」

実 「はい幸さん」

「五分後に対局が始まります出場者は対局ルームに移動して下さい」

実 「そろそろですね」

六花 「そうですわね」

幸 「そろそろ向かうか」

由良 「実一次は対局ルームで!」

実 「うん対局ルームでね」

これより清澄高校麻雀部の長野予選が始まる

## 第九局 圧倒

観戦ルーム：A

美紀「さあ始まるわよ」

数分前

実「三月ちゃん瑠花ちゃん、一人にお願いしたいんだけど」

瑠花「なに？」三月「なんだじえ？」

実「出来れば二人で相手を飛ばしてほしいんだけど」

二人「え？」

実「二人なら多分だけど飛ばせると思うから」

実「美紀から後の三人は極力見られたく無いから」

瑠花「本当に出来るの？」

実「多分だけど出来る」

三月「分かったじえ！」

瑠花「分かった出来る限りやつてみる」

そして場面は戻り

三月「お願ひするじえ！」

モブ123「お願ひします」

東一局 親：片岡三月 ドラ〔北〕

清澄 100000

モブ校A 100000

モブ校B 100000

モブ校C 100000

一巡目

三月 手牌 一二三①②③123 東東東白西

三月 「立直だじえ！」 打牌 〔西〕

三人（ダブリー！？）

二巡目

三月 「ダブリー一発ツモ！全帶三色ダブ東！8000オールだじえ！」

手牌 一二三①②③123 東東東白 和了牌 〔白〕

ドラ〔北〕 裏ドラ 〔8〕

三人（倍満！？）

清澄 124000

モブ校A 92000

モブ校B 92000

モブ校C 92000

THEダイジエスト start

東一局一本場 親：片岡三月ドラ 〔赤五〕

二巡目

三月「立直だじえ！」

手牌 〔①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑦⑧⑨⑨〕

四巡目

三月「立直ツモ！ 平和清一色一盃口一氣通貫 12100オール！」

手牌 〔①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑦⑧⑨⑨〕 和了牌 〔⑨〕

ドラ 〔赤五〕 裏ドラ 〔五〕

三人（今度は三倍満!?）

清澄 160300

モブ A 79900

モブ B 79900

モブ C 79900

観戦ルームA

瑠花「いきなり飛ばしてるね三月ちゃん」

実「だね」

美紀「これホントに飛ばすんじゃないの?」

実「え? もとよりそのつもりで言つたよ?」

皆「え?」

実「だつて三月ちゃんあの程度の相手……ブーストだけで飛ばせるように調<sub>k</sub>…教育したんだから」

皆（いまアカン言葉が聞こえたような気が）

実「調○何て言つてないよ」ニコツ

皆「あ、はい」

三月「ツモ! 清一色一氣通貫8200オールだじえ!」

手牌〔1 1 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 8〕和了牌〔8〕

ドラ〔西〕

清澄 184900

モブ A 71700

モブ B 71700

モブC 71700

実況「またもや倍満ツモです」

実「ほらまた和了した」

対局ルームA

三月「三本場だじえ」

東一局三本場 親：片岡三月ドラ 〔九〕

一巡目

三月「立直！」

手牌 〔一一一二二二四四四九九中中〕

A（どれか分からんがな）打牌 〔中〕

三月「ダブリー一発ロン！混一色三暗刻対々和中ドラ2！46900！」

手牌 〔一一一二二二四四四九九中中〕和了牌 〔中〕

ドラ 〔九〕裏ドラ 〔3〕

A（そこ！？）

清澄 241800

モブA 24800

三月「四本場だじえ！」

東一局四本場 親：片岡三月ドラ 〔二〕

四巡目

三月「立直！」

手牌 〔二二七七七八九東東東白白〕 打牌 〔⑨〕

A 「だから分からんがな！」 打牌 〔白〕

三月「立直一発ロン！混一色ダブ東白ドラ2！24000の四本場は25200！」

清澄 2670000

モブA 一400

観戦ルームA

ざわざわ

実況「決まつた――――――――！清澄高校片岡三月三倍満直撃で東二局を迎える」となく決着！」

実「おーホントに飛ばしたよ」

皆（ 。 ツ。）ポカーン

実「ん？どうしたの？皆？」

美紀「だつてマジで飛ばすとは思わなかつたんだもの」

実「言つたでしょ飛ばすつて」

数分後

三月「ただいまだじえ～」

実「お帰り三月ちゃん」

三月「せつかくだから飛ばしてきたじえ」

その後二回戦同じく三月無双したのでキングクリムゾン！

オマケ実ちゃんのLINE事情

姉達の溜まり場

姉（妹orz）（以下実）「今晚はー」

妹専用膝枕（以下蒼花）「今晚はやでー」

神風先鋒（以下千）「今晚はー」

落ちこぼれIN巫女（以下秤）「今晚はー」

実「地区予選二回戦突破明後日決勝です」

蒼花「おめでとうやでー」

千「おめでとう」

秤「おめでとうございます」

実「皆はどう？」

千「此方は突破したよ」

蒼花「同じく突破したで」

秤「こちらは明日決勝です」

実「頑張つて下さい」

千「姉へ妹も頑張つて」

実「うん頑張る」

秤「私も頑張ります!」

蒼花「全国で待つてゐるで!」

千「こつちも待つてゐる」

実「今日はこれで解散します?」

千「だね」

蒼花「おやすみやで!」

秤「おやすみなさい」

千「おやすみ」

実「おやすみなさい」

現実

実「よし頑張るぞ!」

## 第十局 決勝

前回から2日後

三月 「決勝だじえ！」

美紀 「どうにも気が抜けてるわね」

三月 「緊張しちやつて」

実 「それは全員でしょ」

美紀（実は言えないわよね）

実（そんなことないよ）

美紀（こいつ直接脳内に！？）

それから揺られて

三月 「一昨日ぶりだじえ！」

瑠花 「そこまでテンション上げなくとも」

そして時は進み

どこかの廊下：???

実 「ここどこ???」 オロオロ

実 「こつち？」

??? 「深雪遅いよ！」

深雪 「ごめんね、誠」

一津井誠（ひとつい まこと）

オリキヤラその7

純くんよりかはマシだが男口調気味（というか僕つ娘口調）の女の子  
ただしラブレターは十割女子からの模様

イメージは某アイドル事務所の王子さま（女の子）の龍門渢一年

水戸垣深雪（みとがき みゆき）

オリキヤラその8

どこかのほほんとした薰さんと気のあいそうな天然つ娘

イメージは某擬人化戦艦の初雪さん（名前は深雪なのにイメージが初雪とはこれいかに）な龍門渢一年

ちなみに二人は幼馴染みだ

誠「急がないとミーティング遅れるよ！」

深雪「待つてよ～」

実「スタスタ

二人(?)ゾツ

実「スタスタ

深雪「なんの、あの娘」

誠「まるで由良みたいな空気を感じたよ」

その後

長野予選龍門測控え室：ミーティング直前

深雪「ごめんね」

六花「どうしたんですの？」

誠「それがね」

少女説明中

由良「それってどんな見た目だつたか覚えてるか？」

誠「え、と確かに眼と髪が赤茶色で髪型に角みたいな出っ張りがあつたかな」

葉癒「実だよねそれって」

六花「ですわね」

由良「だな」

深雪「知り合いなの？」

由良「私の最初の友達だ」

二人 「え？」

六花 「本当ですわよ」

六花 「本気の由良に真っ正面からやりあつてまともに戦える数少ない相手ですわよ」  
深雪 「マジですか？」

由良 「マジだ」

キングクリムゾン！

長野予選清澄控え室：決勝前

三月 「それじや行つてくるじえ！」

蜜花 「頑張つて下さい」

三月 「頑張るじえ」

風越控え室：同時刻

美可 「頑張つて下さいねキヤブテン！」

池田美可（いけどみか）

二十五年前の風越の大将池田華奈と中堅吉留未春の娘

生意気な性格と猫体質は受け継いでいる

風越二年

燐 「ええ頑張つて来るわね」

大月燐（おおづき りん）  
オリキヤラその9

現風越キヤプテンおおらかな性格  
家事全般は余裕で出来るただし麻雀では容赦なし  
実と因縁の有る風越三年

龍門渦控え室：同時刻

誠「それじや行つてくるよ」

六花「頑張つて下さいまし！」

深雪「飛ばすきで行つてもいいよ〜」

誠「こつちが飛ばない程度には頑張るよ」

鶴賀控え室：同時刻

一陽「行つてくるね」

速水一陽（はやみ いちよう）

オリキヤラその10

がんばり屋の努力家

部長の幸とは幼馴染み

今年麻雀を始めたばかりの鶴賀一年

幸 「うんしつかりな！」

蕾 「やつてこい」

対局ルーム前廊下：決勝先鋒戦直前

四人「！」

三月 東：親

誠 誠

一陽

西 北

清澄 1 0 0 0 0

龍門渕 1 0 0 0 0

風越 1 0 0 0 0

鶴賀 1 0 0 0 0

対局開始

東一局 親：三月 ドラ {①}

一巡目

三月 手牌 {③④⑤三四五34534779}

三月（良い配牌だじえ！）

三月 「立直！」 打牌（横9）

三人（速い（わね・！））

二巡目

三月 「ダブリ一発ツモ！ 断么九平和一盃口三色 8000オール！」  
手牌 {③④⑤三四五3453477} 和了牌 {5}

ドラ {①} 裏ドラ {①}

清澄 1000000→124000

龍門渕 1000000→92000

風越 1000000→92000

鶴賀 1000000→92000

東一局一本場 親：三月 ドラ {北}

一巡目

三月 手牌 {③③⑥⑥⑦⑦5577六七北南}

三月（うん、悪くないじよ）打牌（南）

誠 手牌 {一一二三5③④⑤③④⑤南南}

誠（この流れ断つしかな）

誠「ポン」

手牌 〔一一二三|5①②③999〕 副露 〔南南南〕

打牌 〔5〕

ニ巡目

三月 自摸 〔一〕

三月 (押していくじえ!)

三月 打牌 〔一〕

誠 「ロン! 全帶南 2300だよ」

誠 手牌 〔一一二三|①②③999〕

副露 〔南南横南〕

三月 「?」(東一局の私の親を和了つた?・・・これなら少し位本氣出していくじえ)

清澄 124000→121700

龍門渕 92000→94300

清澄控え室

実 「あ、ギア使つた」

美紀 「止められたからスイッチ入つちやつたか」

実 「だろうね」

対局ルーム

東二局 親：誠 ドラ（白）

一巡目

三月（副露ギア2）

三月 手牌 一一34577 東東南南発発

自摸 ⑨

三月（良さげな手牌だじえ） 打牌 ⑨

二巡目

誠（なんか清澄にいい流れが行つてるね注意して進めよう）

誠 手牌 赤五五五③④⑤③④⑤⑦⑦南発

打牌（南）

三月「ポンだじえ」

三月 手牌 一一34577 東東発発

副露（横南南南）

打牌 ⑦

四巡目

一陽「・・・」

打牌（発）

三月 「ポンだじえ！」

手牌 〔一一3457 東東〕

副露 〔発横発発〕 〔横南南南〕

打牌 〔7〕

六巡目

三月 「ツモ！ 東発南！ 13000・26000！」

手牌 〔一一345 東東〕

副露 〔発横発発〕 〔横南南南〕

和了牌 〔東〕

ドラ 〔白〕

清澄 121700→126900

龍門渕 943000→91700

風越 920000→90700

鶴賀 920000→90700

東三局 親：一陽 ドラ 〔7〕

三月（次は翻数ギア3）

三月手牌 〔①②③④②③④⑤⑥白北南東〕

一巡目

三月 自摸 ⑦

打牌 ①

五巡目

三月 (いけそうだじえ)

手牌 ②③④②③④⑤⑥⑦六七

自摸 八

打牌 白

六巡目

三月「ツモ！断么九平和一盃口ドラ！」

手牌 ②③④②③④④⑤⑥六七八

和了牌 5

清澄 126900→132100

龍門渕 91700→90400

風越 90700→89400

鶴賀 90700→88100

清澄控え室

1300・2600!」(ギアクリア)

蜜花「お姉ちゃん」

実「なに？ 蜜花」

蜜花「三月ちゃんの『ギア』ってどういう縛りなの？ 翻数と副露つてことは分かるんだけど」

実「副露の方は副露数で1～4で決められるそしてその数副露すると自摸が良くなつてその上『バースト』出来るようになるこの『バースト』の説明はあとね」

蜜花「で翻数ギアの方は」

実「言つてしまえば一人簡易『リザベーション』？」

蜜花「一人簡易『リザベーション』？」

実「うん、次の局は『ギア』が使えないけど倍の翻数で和了出来る」

実「それと翻数ギアの方はもう一つ縛りがあつて立直ダブリーツモ一発とドラがその設定翻数に追加出来ないつまり作り上げた手牌だけの翻数で和了しないとならない多分今回は翻数ギアの3だと思う」

美紀「だから今回は断么九平和一盃口で三翻と」

瑠花「つまり次は」

実「三月ちゃんが跳満を和了する」

対局ルーム

東四局 親：燐

三月 「立直一発門混ツモ！ 3000・6000！」

手牌 〔①②③④④⑤⑥⑦⑧⑧西西〕

和了牌 〔8〕

一陽（跳満ツモかもうそろそろ動こうかな）

燐（清澄が調子出てきてるわねサポートして他を削ろうかしら）  
誠（ホントに流れが絶てないちよつときつそう）

三月（もつと稼ぐじえ！）

清澄 132100↓144100

龍門渕 90400↓87400

風越 89400↓83400

鶴賀 88100↓85100

それぞれの思惑が動くなか先鋒戦前半戦は南入する

# 第十一局 弱化

清澄	1 4 4 1 0 0
龍門渕	8 7 4 0 0
風越	8 3 4 0 0
鶴賀	8 5 1 0 0

## 対局ルーム

三月（南場・：翻数ギアはもう使えないし副露ギアの自摸補正も消えた（メメタア）  
だけどまだまだ押していくじえ！）

誠（清澄への流れが弱くなつた今の内に点を稼ぐ！）  
燐（清澄の子の勢いが消えたサポートしてあげないとね）

一陽（とりあえず様子見最後二局で決めにかかる！）

南一局 親：片岡三月 ドラ（②）

三月（副露ギア2）

一巡目

三月手牌（一一七八八③③2244東東東）

三月（鳴くにはいい感じだじえ）

打牌（一）

五巡目

燐（この辺りかしら？）打牌（4）

三月「ポンだじえ」

手牌（一七八八③③22東東東）

副露（44横4）

打牌（一）

六巡目

誠（戸々はどうだ？）打牌（九）

三月「チー」

手牌（八③③22東東東）

副露（44横4 橫九七八）

打牌（八）

誠（ここで鳴かれたか）

十巡目

三月「ツモ東のみ700オールだじえ」

清澄	1 4 4 1 0 0 → 1 4 6 2 0 0
龍門渕	8 7 4 0 0 → 8 6 7 0 0
風越	8 3 4 0 0 → 8 2 7 0 0
鶴賀	8 5 1 0 0 → 8 4 4 0 0
誠	(そろそろ本氣・・・出そうかな)
龍門渕	が動きだす
南一局一本場	親：片岡三月 ドラ {3}
十一巡目	
三月手牌	{一二三四五六七八九4西西東東}
三月	(張つたじえ)
打牌	{4}
誠	「ロン」
誠手牌	{2 3 3 3 5 6 7 ②③④一二三四}
和了牌	{4}
誠	「断么九平和三色ドラ3 12000の一本場は12300」
清澄	1 4 6 2 0 0 → 1 3 3 9 0 0

龍門渕 86700→99000

清澄控え室

ジ――――――

蜜花「お姉ちゃん？どうしたの？」

実「いや、風越の先鋒どつかで見たこと有るなーと・・・・・あ!?」

美紀「!?どうしたのよ実急に大声なんて出して」

実「いや、思い出した！風越の先鋒の人大月さんだよ！」

美紀と蜜花「・・・あ!!」

瑠花「えーと誰なんですか？大月さんって」

実「三年前のインターミドルの予選で散々苦しめられた風越大付属の先鋒さんだよ・・・そしてたつた一人だけあの時の予選で私が本気を出した相手だよ」

瑠花「・・・え!?それヤバくない？」

実「うん、ヤバイ多分この前半戦は動かないと思うけど多分後半戦から本気出すと思う」

蜜花「三月ちゃん頑張つて・・・」

誠「ロン！門混役牌2！8000だよ！」

手牌 〔④④④⑤⑥⑦⑧白白白發發發〕

和了牌 〔⑥〕

ドラ 〔一〕

清澄 133900→125900

龍門渕 990000→107000

実（そういういえばさつきも三面張だつた・・・三面張だと直撃が取れる？だけどそれだけだとさつきの不可解（↑実がそう直感しただけだが）な鳴きがよくわからない、となると・・・そういういえば母さんが言つてたつけ純さんが弟子とつたつて・・・まさかね）

南三局 親：速水一陽 ドラ 〔⑥〕

一陽（ここで稼がないと）

八巡目

誠「ツモ 平和二盃口20000・40000」

手牌 〔11三四五三四⑦⑧⑨⑦⑧⑨〕

和了牌 〔五〕

清澄 125900→123900

龍門渕 107000→115000

風越 82700→80700

鶴賀 84400 → 80400

南四局

三月（連莊させないじえ！『バースト』！満貫和了るじえ！）

五巡目

燐打牌（七）

三月「ロン！」 門混白 80000だじえ！」

手牌（二三四四五六七七八九白白白）

清澄 1239000 → 131900

風越 807000 → 72700

実況「決勝先鋒戦前半戦終了——！」

実況「清澄高校が独走状態です」

純「続いて龍門渕が続いているな」

実況「風越と鶴賀には辛い状況でしようか」

純「だなただ未だに動きがないから怖いな特に風越の大月燐は過去のインターミドルで活躍してるから恐ろしいな」

清澄 131900

龍門渕 115000

鶴賀 風越

8	7
0	2
4	7
0	0
0	0

## 第十二局 炎天

実「おーい三月ちゃん」

三月「ん？」

実「大丈夫？」

三月「ごめんだじえ」

実「何で？」

三月「だつてかなり点棒削られちゃつたし」

実「三月ちゃん」

三月「？」

実「大丈夫だよ絶対に勝つから」

実「だから安心して楽しく打ってきて」

三月「分かつたじえ！」

実「後もうそろそろ大月さんが動くと思うから気をつけて！」

三月「了解だじえ！」

「まもなく対局が始まります、対局者は急いで対局ルームに戻つて下さい」

三月「それじや頑張つてくるじえ！」

清澄	1	3	1	9	0	0
龍門渦	1	1	5	0	0	0

風越	7	2	7	0	0
----	---	---	---	---	---

鶴賀	8	0	4	0	0
----	---	---	---	---	---

三月	東	:	親
----	---	---	---

一陽	燃
----	---

誠	北
---	---

六順目	西
-----	---

東一局	親
-----	---

手牌	片岡	三月
----	----	----

ドラ	{	9	}
----	---	---	---

三月「ポン」

手牌	{	③	③	③	五六六	}
----	---	---	---	---	-----	---

副露	{	②	横	②	横	3	3	3	}
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

打牌	{	白	}
----	---	---	---

燐	{	口	ン	}
---	---	---	---	---

手牌 〔①②③234234北北北白〕

和了牌 〔白〕

燐 「一盃口のみ 1600」

清澄 131900↓130600

風越 72700↓74300

ボツ

清澄控え室

実 「來たね」

美紀 「來たつて何が?」

実 「大月さん」

瑠花 「動くの?」

実 「多分全員一終了になることも考えておかないとね」

皆 「・・・」

東二局 親：大月燐 ドラ 〔2〕

三月 (風越のおねーさん、実先輩がヤバイつて言つてたじえ)

手牌 〔五五七八三三三344西北發〕 自摸 〔六〕

打牌 〔西〕

誠（風越のこの人由良ちゃんが危ないって言つてたつてことは要警戒だね）

打牌〔北〕

一陽（早く親を流さないと嫌な予感がする）

打牌〔三〕

燐（そろそろいこうかな）

打牌〔六〕

七順目

燐「ツモ ダブ東混一色 6000オール」

手牌〔①①②③④③⑤東東東南南〕

和了牌〔南〕

清澄 130600↓124600

龍門渕 115000↓109000

風越 743000↓92300

鶴賀 804000↓74400

ボボツ

燐「一本場」

清澄控え室

実（このままじや鶴賀が飛びかねないなあ）

実「瑠花ちゃん」

瑠花「なに？ 実ちゃん」

実「もしも鶴賀が飛びそうだつたらサポートしてあげてね」

瑠花「ん、了解点数の大まかな調整に関しては私得意だからね大体平らか一人浮き状態にしてくるよ」

東二局一本場 親：大月燐 ドラ〔白〕

燐「ツモ 三暗刻ドラ2 4100オール」

手牌 〔①①①②③④555七七七白〕

和了牌 〔白〕

清澄 124600→120500

龍門渕 109000→104900

風越 92300→104400

鶴賀 74400→70300

清澄控え室

実「ごめんちょっとトイレ行っていい?」

美紀「う、うん分かった」

ギイバタン

瑠花「ど、どうしたんだろう実ちゃん」

三月「分からんじえ」

蜜花「だけど何かいや何処か違った」

美紀「うん、何と無くだけど何時もの実じや無い実ぽかつた」

四人「・・・」

女子トイレ

実「五月蠅い」

実「そんなこと言つても出さないよ」

実「あの時は皆に頼まれたから使つただけ」

実「五月蠅いよ」

廊下

フラフラ

実「？」

数分後

ピタツ

実「あれ？こ、ど、？」

六花「あれ？実？」

実「？あれ？龍門渕さん？」

六花「だから六花でいいとつて何でこんなところに居るんですの？」

実「え？えと・・・」

六花「はーまた迷ったんですね」( - バ ) = 3

実「あはは」(のワの)

六花「仕方ないですわね、連れて行きますわ」

実「え?!悪いよ」

六花「だつて一人で行くと会場内で遭難する未来が樂々想像できますわよ? 今だつて

そうですね」

実「あはは・・・」

その頃清澄控え室

燐 「七対子ツモドラ 3 6200 オール」

手牌 〔一一二三五赤五④④⑧⑧⑨⑨7〕

和了牌 〔7〕

ドラ 〔④〕

清澄 120500↓114300

龍門剣 104900↓98700

風越 104400↓123000

鶴賀 703000↓64100

美紀 「また和了つたわね」

蜜花 「これ、不味く無いですか？」

瑠花 「うん、かなり不味い」

美紀 「なにより鶴賀が危ういわね」

瑠花 「調整任せたけど巧く出来るかな・・・」

蜜花 「瑠花先輩の能力ならかなり楽だと思いますけど」

瑠花 「確かにそうなんだけどさ・・・」

実「ただいま……」

美紀「ちょっと実大丈夫なの!?」

実「今のところは大丈夫」

実「六花さんありがとうございました」

六花「良いですわよ、貴女一人だと確実に遭難しますし」

実「言い返せないのが辛い」

六花「まあ今度遊びに来てくれたら良いですね」

実「分かった近い内に遊びに行くよ」

実「で、どんな状況?」

美紀「鶴賀がかなり危ういわね」

美紀「それと大月さんが無双してるわ」

実「あ、やっぱり?」

蜜花「お姉ちゃんそななる確信が有ったみたいだけどなんで?」

実「だつて私相手にオーラスまで行つた相手だよ?」

三人「ああ、なるほど」

対局ルーム

東二局三本場 親：大月燐 ドラ(⑤)

誠（どれだけ和了るきだこの人）

打牌  $\widehat{(9)}$

ゾツ

誠（これ不味い！）

燐「ロン対々和混一色 12900」

$\widehat{(1)(1)(1)(6)(6)(6)(9)(9)}$  白白

副露牌  $\widehat{(4)(4)}$  横 $\widehat{(4)}$

和了牌  $\widehat{(9)}$

龍門渕 9 8 7 0 0 → 8 5 8 0 0

風越 1 2 3 0 0 0 → 1 3 5 9 0 0

ボオオオオオ

東二局四本場 親：大月燐 ドラ  $\widehat{(1)}$

一陽「ツモ」

二人（え？）

燐（和了られちやつたか）

手牌  $\widehat{1} 2 3 4 5 6 7 8 9 10$

和了牌  $\widehat{1}$

一陽 「純全帶三色ドラ 1 30000・60000の四本場は3400・6400—

清澄 1143000↓110900

龍門渕 858000↓82400

風越 1359000↓129500

鶴賀 641000↓77300

燐 (・・・)

手牌 〔九九④④⑨⑨5赤599白白發〕

パタン

鶴賀控え室

幸 「やつとか」

蕾 「そうですね」

幸 「一応これで点数は大丈夫かな」

絵莉 「ワハハーだなー」

蒲原絵莉 (かんばら えり)

鶴賀の元部長蒲原智美と役満畜生こと妹尾佳織の娘

ワハハの口癖は100%遺伝

そんな感じの鶴賀二年

蕾「このまま国士まで繋げられると良いのだが・・・」  
幸「龍門渕が巧く動くかどうかだね」

東三局 親：一句瀬一陽 ドラ（五）

五順目

一陽「ツモ」

手牌（①①①②②③③④④⑤⑥⑦北）

和了牌（北）

一陽「門混一盃口 4000オール」

清澄 110900↓10690

龍門渕 82400↓78400

風越 129500↓125500

鶴賀 77300↓89300

三月（東場なのに全然和了れないじえ）  
誠（何がどうなつてんだよおこれ）

一陽「一本場」

東三局一本場 親：一句瀬一陽 ドラ（二）

三月手牌（1234455689⑤⑧東東）

三月（混一色一通一盃口二向聴、ツキは確実に來てるのに和了れないじえ）

十順目

一陽「ツモ」

一陽手牌 {一一一①①⑦⑧⑨12399}

和了牌 {9}

一陽「純全帶ドラ3 6100オール」

清澄 106900→100800

龍門渕 78400→72300

風越 125500→119400

鶴賀 89300→107600

東三局二本番 親：一句瀬一陽 ドラ {②}

八順目

誠「ツモ！」

手牌 {11336677東東南南發發}

誠「立直一発混一色七対子 4000・8000は4200・8200」

清澄	龍門渕	1 0 0 8 0 0 → 9 6 6 0 0
龍門渕	風越	7 2 3 0 0 → 8 8 9 0 0
風越	鶴賀	1 1 9 4 0 0 → 1 1 5 2 0 0
鶴賀	東四局	1 0 7 6 0 0 → 9 9 4 0 0
東四局	六順目	親：一津井誠 ドラ [北]
六順目	誠打牌	[北]
誠打牌	一陽	「ロン」
一陽	手牌	〔①②③④⑤⑥⑦⑧⑨東東北北〕
手牌	一陽	「一通北ドラ 3 1 2 0 0 0」
一陽	清澄	9 6 6 0 0
清澄	龍門渕	8 8 9 0 0 → 7 6 9 0 0
龍門渕	風越	1 1 5 2 0 0
風越	鶴賀	9 9 4 0 0 → 1 1 1 4 0 0
鶴賀	誠（嘘つ！？）	

こうして先鋒戦は最終局面を迎える・・・

番外局 実ちゃん達の比較的カオスな日常  
咲 新しい世代番外局 実達のバレンタインデー

清澄高校 麻雀部部室：放課後

瑠花 「こんにちはー」

三月 「瑠花先輩こんにちはーだじえ！」

蜜花 「あれ？お姉ちゃんと美紀先輩は？」

瑠花 「あー教室でもちくちゃにされてたよ実ちゃん」

二人 「え!?」

ちよつとだけ時は戻り

教室 2—3

瑠花 「おーい実ちゃん部室行こー」

実 「うんわかったい」

クラスメイト 「実ちゃんはいこれ友チヨコー」

実 「ありがとうね」

杏 「はいこれチヨコよ実」

実「ありがとうね澤野さん」

澤野杏（さわの あんず）

日常系のオリキヤラその1

実のクラスの学級委員で実とはクラス内でもそこの仲は良い方  
ちなみに麻雀にも少し興味が有り最近ネトマを始めた

杏「同じ学級委員なんだから杏で良いって何度も」ボソッ

実「何か言つた？」

杏「いや何も言つてないよ」

実「それなら良いけど何か有るなら言つてよ！」

杏「うん、分かつた」（そんな事言つてるからモテてるんだけど無自覚だから困る）

クラスメイト2「はーいこれ実に友チヨコね」

実「ありがとう」

実「ごめん瑠花もう少し時間かかりそうちだから先に行つて！」

瑠花「わ、分かつた」

そして時間は戻り

瑠花「ということが有つたんだよ」

蜜花「お姉ちゃん昔から男の人にも女の子にもモテるからねー」

三月 「そうなかじえ」

蜜花 「だつて小学の頃に虐めの終わった後何度も告白されてたし中学に入る頃には女子にも告白されたって言つてたよ」

瑠花 「ま、マジで・・・あり得るわね実なら」

蜜花 「美紀部長も同じ状態だと思いますよ?」

実 「ふうやつと着いた・・・」つ大量のチヨコ  
美紀 「やつと着いたわ」つ同じく大量のチヨコ

三月 「な、なんだじえその量・・・」

実 「蜜花♪ 鞄からエコバッグ出して♪」

蜜花 「分かったよお姉ちゃん」

バサツ (かなり大きい)

瑠花 「デカツ!?'

実 「これくらい大きくないと入りきらないんだよね・・・」

瑠花 「どういうかクラスの女子全員以上の数ない?」

実 「廊下とかでも渡されたんだよ」

瑠花 「え!?'

再び時は戻り

実「ふう」（毎年思うけどバレンタインデーってこんなにチョコ貰えるものだつたつけ）↑クラスの女子（17人内4人本命）全員から貰つた

他クラス娘（以下他クラス）「あ、あの実さん！」

実「ん？」

他クラス「チョコ貰つて下さい！」

実「うん、いいよ」

他クラス「は、はい！ありがとうございます！」

後輩「み、宮永先輩チョコ受け取つて下さい！」

実「うん、良いよありがとうね」

そんなこんなで

実「合計30個位貰つちやつたんだよね」

美紀「私も同じような感じだわ」↑紙袋（大）×2にぶつこみ

実「美紀ちゃんは40個位貰つてるよね！」

蜜花「お母さん（咲さんに和はママ）と一緒に色々な所に行つたときに知り合つた人達からも送られるから本当に多いからねお姉ちゃん」

瑠花「え？」

実「去年のバレンタインデーの写真見る？」

瑠花「うん」

実「ん」つ去年のバレンタインデーの時の写真（学校内+全国の友人一同から送られたきたチヨコ（内幾つかは羊羹や饅頭などの和菓子））

瑠花「何で和菓子混じってるの？」

実「鹿児島の人達とか奈良の四季ちゃん達から来たヤツだね」

瑠花「何でそんな所からも・・・」

蜜花「本当に全国から着くからねお姉ちゃん宛てのチヨコ」

三人（というか明らかに本命っぽい物が幾つか先輩も実ちゃん（お姉ちゃん・実先輩）もかなり鈍感だから困る・・・）

実「あ、これ皆にチヨコ」つチヨコ

蜜花「お姉ちゃんありがとう開けていい？」

実「いいよ！」

瑠花「これって」

実「生チヨコトリュフだよ」

美紀「ず、随分と手の込んだものを・・・」

実「まあね何時もお世話になつてるし皆のこと好きだしね」

四人（そんな事だから好きな人が増えるんだよ実（お姉ちゃん・実先輩））

美紀「次私から皆にね」

そんなこんなで部活終了後

宮永家自宅

実・蜜花「ただいま」

和「お帰りなさい実に大量のチョコ届いてるよ」

実「分かったママ」

以下手紙

実へ

手紙とか初めて書いたからどういうこと書けばいいか分からわね・・・

実のことだから大量のチョコ貰つてるだろうから私からはカツプケーキを送つてみたわ初めて作つたらから上手く出来たかは分からないけど頑張つてみたから食べてみてね

p.s 次の公式戦はインカラで打ちましょう

以上大月燐からでした

実「大月さんからはカツプケーキか大月さんお菓子類はあまり作つたこと無いつて言つてたのにありがとうございます」

実ちゃんへ

うちらは生チヨコ作つてみたでそこそこ美味しく出来たと思うから美味しく食べてなー

以上蒼花やで〜

お姉ちゃんが書いちやつたけどうちらは生チヨコ作つたで！

お姉ちゃんが料理苦手でびっくりしたわ〜

p.s また膝枕してなー

以上深花やつたで

ということ以上清水谷姉妹でした

実「蒼花ちゃん達は生チヨコか〜仲良く作つたのかな？ そういうば蒼花ちゃんつてかなりの家事音痴だつたきが・・・」

実ちゃんへ

先に愚痴つてええか？ まあ手紙やし拒否されても書くで

最近な主将が五月蠅くてなまあそれで強いからなんも言えないんや

他にもな最近二年が生意氣だつたり部長だから色々押し付けられたりするんや本当  
にめげるわ

こんなんでめげたらあかんな愚痴も書いたしつかり部長やるわ

今年はピーナツツチヨコ作つてみたで

喜んでくれると嬉しいなあ

ということで殆ど愚痴しか書いてない末原響華やつたわ  
実「本当に愚痴しか書いてないよ末原さんでもすごいなあ毎年毎年違うチョコ作つて  
るもん今まで被つたときないし」

実へ

今年のバレンタインの手紙は私四季だよ！

今年は皆だけで作つて送つたからちよつと歪んでたりするかもしねりないけどそこは  
ごめんね m（ーー）m

そんなこんで皆で作つた和菓子美味しく食べてね！

実「へー今年は皆だけで作つたのか皆頑張つていたんだろうなまた近い内に遊びに行  
こうかな」

実へ

今年はチームの皆で作つてみたからそれぞれ個性が出て面白いかも  
まあ誰がどれを作つたか考えながら食べてみてね

千より

実「千は眞面目だなあ全くもう少し流ちゃん寄りになつても良いと思うけどなつて連  
理さんも作つたの!?ある意味楽しみだな」

和 「実ーご飯だよー」

実 「分かつたよママ」

実 「うくんやつぱりまだまだ有るね食べたらまた読もつと」  
こうして実のバレンタインは幕を閉じた